

築も急務です。

素材生産事業の効率化と高付加価値化に向けた取組について

昨年6月に閣議決定された森林・林業基本計画において、「新しい林業」に向けた取組の展開の方向性が示されました。九州森林管理局では、林業事業体育成プロジェクトチームにおいて、労働災害の防止、自然環境への配慮に加え、生産性の向上と資源の有効活用など林業のイノベーションに取り組む林業経営体を国有林野事業の実行を通じて支援する事としています。具体的には、

- (1) 日報を用いた工程管理など生産性の向上や需要に応じた採材など資源の有効活用のための工夫を行っている林業経営体の事業地において、素材生産者、国有林行政担当者、有識者、局署担当者等による現地検討会を開催。
- (2) 高い生産性を達成するなど優れた事例を国有林間伐・再造林コンクールで表彰するとともに、森林管理局のホームページでその取組を公表。
- (3) 生産性の向上と資源の有効活用に向けた林業経営体の取組を、総合評価方式による発注や事業成績評価において評価。



現地検討会（素材生産現場）



現地検討会に参加した関係者

- (4) 作業工程毎の生産性や進捗状況の把握を容易にする新たな日報管理プログラムを配布し分析に協力。
- (5) 林業経営体の団体が行う勉強会などに対し、講師派遣や

情報提供により協力等の取組を行っている。

この支援を通じて、九州の林業経営体がトップランナーとして素材生産事業の効果と高付加価値化を推進し、労働安全対策を強化しつつ収益性を向上させることを期待します。

情報提供により協力等の取組を行っている。

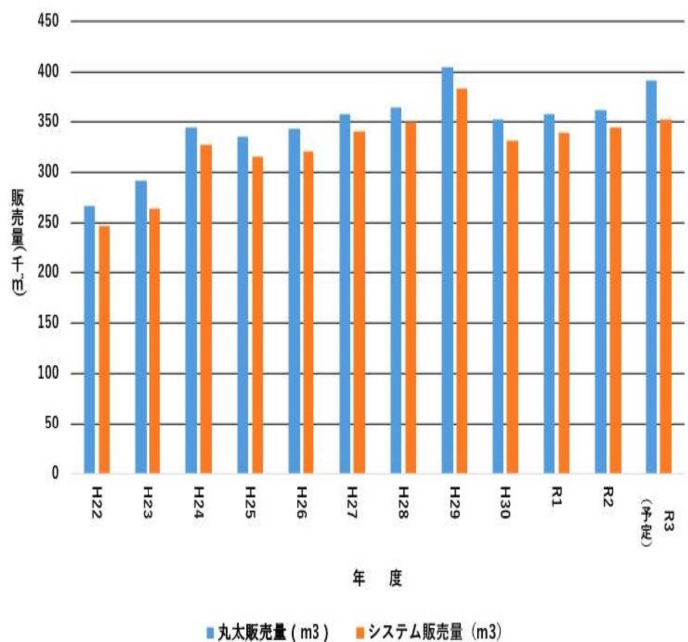


現地で発表する職員

旺盛な木材需要に 대응するために

九州森林管理局では、地域の木材需要に応じた木材の安定的な供給体制を構築するため、山に木が立った状態で販売する立木販売と、国有林自らが素材生産事業を実施し丸太にして販売する製品販売とがあります。ちなみに素材生産事業につきまし

システム販売の推移



ては、戦後に植林された森林を適切に維持管理し国土保全や水源かん養機能をより発揮するため行う保育間伐等により伐採された木材・資源を有効に活用する伐採系森林整備事業として実行しています。

国有林から生産する丸太は、一般製材用、合板用、製紙用、バイオマス用など幅広く供給しており、その多くを国産材需要拡大に取り組む製材工場などの需要者と安定供給システム協定を締結し販売しています。この協定については、年2回の公募

により協定者を募集し協定締結者を決定していますが、今年度の応募は公募量に対して約3倍の傾向にあるところであり、国有林材の安定供給システム協定に対する期待が高まってきているのを感じています。

国有林材供給調整の取組

国有林では、木材を政策的に供給しうる優位性を活かして、地域の木材需要が急激に増減し



国有林材供給調整検討委員会の状況

た場合などの地域の需給動向を踏まえ、木材市況調査等の結果等を基に供給調整の必要性を検討するため、各局に「国有林材供給調整検討委員会（以下、供給調整検討委員会）」を設置しています。九州森林管理局においても、学識経験者や木材産業関係者等の意見を聞くために九州森林管理局供給調整検討委員会を四半期毎に開催しています。

今後においても、民有林材の出材状況、製品価格や原木価格の動向、製材工場や原木市場等の仕入れ状況等の木材を取り巻く状況を注視し、学識経験者や木材産業関係者等の意見を聞きながら機動的に供給調整を実施できる体制を維持していくこととしていきます。

昨年秋以降は需要動向も安定し木材価格も徐々に回復を見せつつあった状況にありましたが、今年に入りアメリカや中国の経済の復興による国際市場での買い負けやコンテナ船不足等により外国産製品の輸入が減少したことに伴う国産材製品の代替需要が発生し、いわゆるウッドショックといわれる国産材の急激な需要の高まりが起きました。九州各地においても製品不足、原木、立木とも価格が高騰するなど木材を巡って、前年とは全く違う大変な状況になったところです。このような中、九州森林管理局では、立木販売の計画の前倒しを含めた早期販売や素材生産事業の早期発注に取り組み、地域における木材の安定供給に取り組んでいるところです。



低コストモデル実証団地ゾーン配置図

低コスト造林技術の確立と人材育成並びに市町村支援
技術普及課

確実な再造林の実施に向けた低コスト造林技術の確立

戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中、特に、九州地方は全国と比較しても抜群の森林資源量と素材生産量を誇り、いち早く本格的な利用期を迎え、この豊かな森林資源を「伐って、使って、植える（育

成る）」と循環利用を行うことにより、林業を資源循環型の成長産業化として再構築し、競争力の強化を図り、地方創生を実現する必要があります。しかし、木材価格は下落し、山元に還元出来る資金が減少していることから、再造林をする意欲も沸き立ちません。

加えて、九州においては、シカによる森林被害が激増し、シカ被害対策も必要なことから造林コストは嵩む一方となっております。民有林では再造林放棄地が増加するなど林業そのものの継続が危惧される状況にあります。

このような中、確実な再造林に向け、また国有林のスケールメリットを活かして先駆的手法を積極的に実証・導入し、低コスト造林技術を確立するとともに、これら技術を民有林へも普及するため森林総合研究所九州支所、九州育種場、宮崎大学、九州森林管理局、森林技術・支援センター及び熊本南部森林管理署との共同試験地として「低コストモデル実証団地（以下、「実証団地」という。）」を平成29年度に人吉市の西浦国有林

に設定し、AからKまでのゾーンに分けて各試験研究機関等がそれぞれ実証試験を実施していきます。

今回は、これまでの主な結果について一部をお知らせします。

【特定母樹等コンテナ中苗】
特定母樹等のコンテナ中苗（九州森林管理局では、苗高70cm〜100cm程度の苗木を「中苗」と新たに定義しました。（特定母樹等優良品種）を植栽し、2・3年間の下刈を実施しました。樹高が3生育期後には150cm以上に達したこと、造林木の梢端部が周辺の雑草木より抜け出ていることから、下刈回数を削減できる可能性が有ります。



3生育期後（特定母樹コンテナ中苗）

【単木保護資材（ツリーシールド等）】

これまで、シカの食害等を回避するため獣害ネットを設置していましたが、当試験地では単木保護資材を使用し、造林木への影響を調査しました。その結果、造林木の樹高成長は良好であり、5年間無下刈で対応できる可能性がります。なお、単木保護資材内での造林木は形状比が高い状態となりましたが、梢端部が単木保護資材から抜け出すと形状比が回復することが分かりました。



4生育期後（特定母樹コンテナ中苗）

【高下刈】
スギへのシカ被害が軽減することを期待して、シカが好む雑草を林地に残るように通常よりも高い位置（スギ造林木の梢端部が埋もれないよう地上高50

cm程度）で刈り払う「高下刈」の有効性を評価する試験です。この高下刈は、森林総合研究所九州支所が中心に試験を行っており、シカの餌となる多様な植物を残すことが肝要です。また、高下刈の誤伐は軽微なものが多く、植栽1～2年目であれば作業効率が良いことも分かりました。



高下刈作業中（Fゾーン）

以上、実証団地で取り組んでいる試験内容の一部についてお知らせしました。

実証団地については設定後5年目になったことから、これまでの試験研究の結果をとりまとめ、今年度末までに成果集として発行する予定としています。

※上記の記載内容は当試験地内のものであり、諸条件によって造林木の成長等にも違いがある

ります。

九州森林管理局では、森林・林業に関する広範囲な知識・技術や指導方法等の習得のため「林業成長産業化構想技術者育成研修」を、九州局管内の県、民間及びび署の職員を対象に、演習・現地実習を中心とした研修を行っています。

**技術者育成のための研修と
フォレスター活動推進会議**

【林業成長産業化構想技術者育成研修】

日程 令和3年10月19日から

10月22日

場所 熊本県人吉市

受講者 13名（県9名、民間1名、国有林3名）



光田教授の講義

宮崎大学の光田靖教授、元林

野庁職員の小原文悟氏を講師に招き、地域特性に応じた森づくりを念頭に、ICT等技術を活用して資源把握、路網配置計画、資源活用計画を作成し、安定的・



森づくり検討の現地実習



ICTを活用した演習

循環的な木材生産の実現に向けた林業成長産業化構想を、仮想した地元市町村長へ発表・意見交換を行いました。
この研修の演習・発表は、合意形成を導くためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力などのスキルアップにも繋がっています。



林業成長産業化構想のプレゼンテーション演習

【フォレスター等活動推進会議】
日時 令和3年12月7日から
12月8日
場所 九州森林管理局 大会
議室

九州管内のフォレスター等を対象に地域で活動する中での新たな課題への対応や知識・技術力向上のフォローアップを図ることを目的に毎年度開催してい



小島局長の挨拶

るもので、今年度は、木材の利用促進に向けた取り組み及び林業のICT化の意義についての講演会を開催しました。1日目の会議には、局署等の職員をはじめ県・市町村職員の77人が参加し、林野庁木材産業課齋藤健一課長と鹿児島大学農学部寺岡行雄教授による特別講演が行われました。2日目は、沖縄県及び森林整備センター九州整備局による情報提供（事例発表）が行われました。



鹿児島大学寺岡教授の講演



林野庁齋藤木材産業課長の講演

の定例会を開催しました。
 (特別講演)
 ○ 建築用木材の安定供給体制の構築に向けて
 林野庁林政部木材産業課長



情報提供の様子

齋藤 健一
 ○ 林業ICT化の意義と手法及びその実践について
 鹿児島大学農学部農林環境科学科
 教授 寺岡 行雄
 (情報提供)
 ○ コロナに負けない。県産木材普及への新たな取り組み
 沖縄県農林水産部森林管理課主任技師 仲里 貴正
 ○ 水源林造成事業における面的な森林整備について
 森林整備センター九州整備局課長補佐 木學 良広

1 はじめに
 九州地域では、戦後、造成されたスギ、ヒノキ人工林の蓄積量が増大し、本格的な利用期を迎え、伐採等が進む中、持続的な森林・林業が確立できる造林コストの低減が喫緊の課題となっています。

2 各種調査
 【センダンにおける天然力を活用した更新の育成手法の検討】
 短伐期で収穫可能な早生樹（コウヨウザン、ユリノキ、センダンなど）が民有林を主体に関心が高まっています。このようなことから、当センターの自主課題として宮崎北部森林管理署と連携し、人工植栽及び天然力を活用した天然更新（播種、ぼう芽）における省力・低コスト施策、人口播種の検討などを目的に取り組み、特に天然更新に注目しました。（図1）

『施業及び調査』
 H31年3月枝打ち、台切り（人工植栽のみ）
 R2年7月下旬刈り終了（人工



図1.センダン試験地

- 人口植栽箇所 2箇所**
 (斜面上部及び下部)
 ・センダンを1.29ha植栽 (H29年5月)
 ・センダンは1,380本 (1,500本/ha) 植栽。
 ・シカ対策として、ツリーシェルター、シカ防護柵を設置。
- 天然更新箇所 1箇所**
 (斜面最下部)
 ・天然更新観察区として設定

植栽のみ)
 毎年、植栽箇所は各30本、天然更新箇所は81本の胸高直径、樹高を測定
 『調査結果』
 5年目の調査木の生育状況は、

「伐って 使って 植える (育てる)」「循環サイクル に向けた低コスト造林への取組 森林技術・支援センター」

胸高直径、樹高及び枝下高は、天然更新箇所が最も生育良好で、シカ防護ネット、ツリーシェルター箇所との順となっております（表1）。また、斜面の下が成長がよく、土壌条件などがかなり影響しているものと思われま



天然更新の生育状況（5年目）



人工植栽（ツリーシェルター）の生育状況（5年目）

す。センダン等は、地位、標高などの条件によっては人工植栽、天然更新とも生育良好で早生樹として潜在能力が高いことがいえます。また、母樹が無い箇所においては、天然による発芽（鳥媒等）は難しく、人工播種による更新について検討する必要があります。これから、発芽試験を実施していきます。

また、母樹が無い箇所においては、天然による発芽（鳥媒等）は難しく、人工播種による更新について検討する必要があります。これから、発芽試験を実施していきます。結果（表2）は、地表処理し、剥皮した種子を播種し覆土した方が発芽率が高い傾向にあります。今後、これらの実証試験を

	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	枝下高 (m)	備考
ツリーシェルター箇所	4.57	4.18	1.85	斜面上部
シカ防護ネット箇所	5.20	5.56	2.04	斜面下部
天然更新箇所	5.87	6.39	2.77	最下部

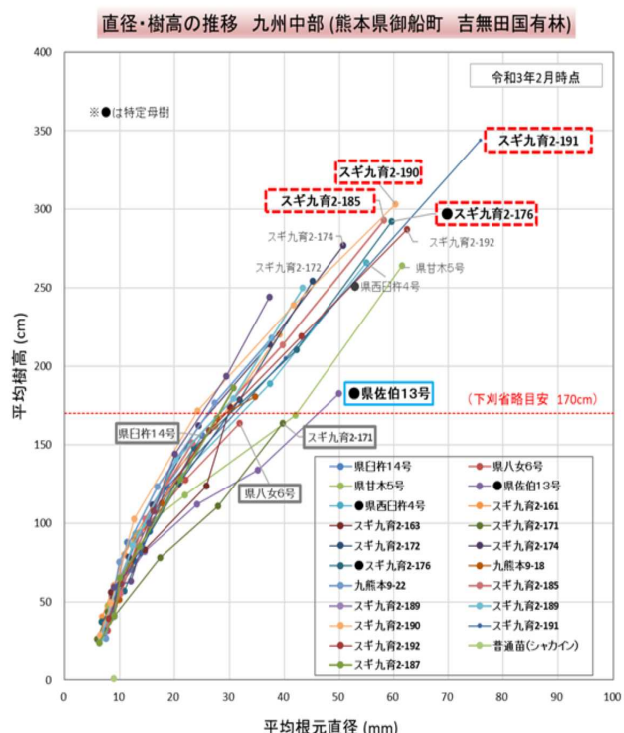
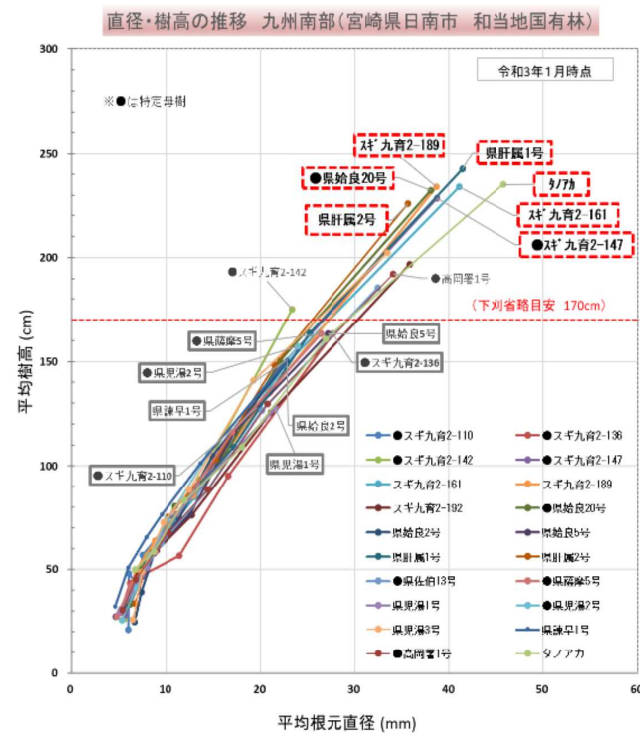
表1. 調査木の平均値

『成長量調査結果』
下刈り省略の目安（170cm程度）に達した系統は、九州中部においては、第3成長期後で1系統、第4成長期後で12系統、第5成長期後で5系統となりました。九州南部においては、第4成長期後まで到達する系統はありませんでしたが、第5成長

【エリートツリーコンテナ苗を活用した現地への適応性】
主伐・再造林を効率的に進めるため、九州中部（熊本県御船町）、南部（宮崎県日南市）において、20系統のエリートツリーを植え、系統別の成長量等を比較して、下刈り回数の削減と合わせ、現地の適応性を平成27年度から検証しています。

	地表処理		地表処理せず (A0層あり)
	覆土	覆土せず	
剥皮	54.2%	46.8%	15.1%
剥皮せず	46.9%	33.7%	9.2%
計	50.6%	40.2%	12.2%

表2. 処理別・発芽率





九州中部



九州南部

クリスマス用の モミの木を贈呈 しました

【大分西部森林管理署】

令和3年12月3日、日田市のフレイベル学園三芳幼稚園にクリスマスツリー用のモミの木（高さ約4m）を贈呈しました。モミの木は、山国森林事務所部内から採取したもので、当日は6名の職員が園に届けました。

園にモミの木が到着すると同時にたくさんのお園児から盛大な拍手と歓声があがりました。階段下のフロアにモミの木を設置後、モミの木を囲み「もみの木会」のセレモニーが行われました。

園児たちの代表者からモミの木の御礼として手作りの感謝状が職員に贈呈され、津脇晋嗣署

長から「もうすぐでみなさんが楽しみにしているクリスマスがあります。またその後すぐにお正月を迎えるのできちんと手洗いがいを行い、クリスマス、お正月を健康で向かえて下さい」と返礼の挨拶がありました。

その後、園児たちはモミの木に色とりどりの飾りを行い、元気で可愛い歌とダンスの披露があった後、園長先生から丁寧な挨拶を頂き、セレモニーの幕が閉じました。

見送られる際も盛大な拍手を受け、園児の皆さんに喜んでいただけたことを改めて実感しました。

私たちも園児の皆さんの明るい笑顔と心のこもった感謝状からたくさん元気をもらうことができました。

（モミの木の贈呈は同園が1967年に開園した当初から続く



園児の代表から感謝状の贈呈



飾り付けを行う園児達

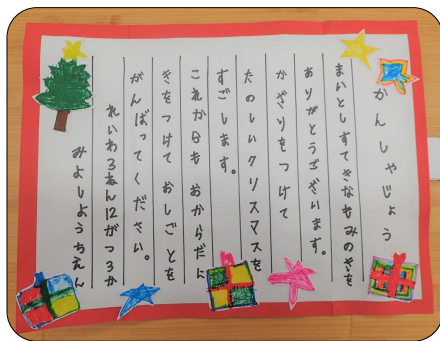
行事で、毎年、地元マスコミの取材もあり、当署では恒例となっております。（）

★園児から頂いた感謝状の文面★

かんしゅじょう

まいとしすてきなもみのきをありがとうございます。かざりをつけて たのしいクリスマスをすごします。これからもおからだに きをつけておしごとをがんばってください。

れいわ3ねん12がつ3かみよしようちえん



頂いた手作りの感謝状

権の屋久島木材フェスタが屋久島町役場で開催されました。当日は、木業者や林業関係者が出店するなか、屋久島森林管理署も木工クラブ体験コーナーに参加しました。

屋久島木材フェスタは例年「木づかい月間」に併せて開催されていますが、本年は新型コロナウイルスの影響により11月27日の開催となりました。

当日は冬空の透き通った快晴の下、沢山の来客が訪れ盛大に開催されました。

屋久島森林管理署の木工クラブ体験コーナーでは、小さい子供から年配の方まで幅広い方に楽しんで貰えるように、竹とんぼ、キーホルダー（モックン）、竹の箸を準備しました。

竹とんぼ作りでは、竹とんぼの羽に綺麗に色づけしたり、モックン作りでは目玉の上に睫毛を



真剣に作成する参加者

3 おわりに
今回、当センターの取組を2つ紹介しましたが、九州各地において行っている各試験の継続的な調査、分析等を進め、持続可能な森林・林業の確立、民有林へ情報提供（普及・定着）が図られるよう、引き続き技術開発を進めて参ります。

屋久島木材フェスタ に参加

【屋久島森林管理署】

「木を見て！触れて！遊んで！木の魅力を見直そう！」をスローガンに屋久島町みどり推進協議会、熊毛流域活性化センター主



幅広い参加者に感謝

市民文化会館パトリア日田」で開催されました。

このフェアは今年で第12回目を迎え、「日田市の基幹産業である林業・木材産業を来て・見て・触れて・知る」イベントとして、40を超える企業・団体が参加し、協力団体に名を連ねる当署もクリスマスリース作り、サクラの小枝を使った「もっくん」作りを体験できるブースを出展しました。

署ではフェアの1週間前から、クリスマスリースに必要な蔓や松ぼっくりなどの材料の調達、飾りの準備などに署内・森林事務所の職員総出で取り組み、当日は5名の職員が来場された方々のクリスマスリース作り等のサポートを行いました。

今年も当署のブースは大好評で、開会してすぐに多くの方々が訪れ、閉会時間まで途切れる

日田の木と暮らしのフェアに参加

【大分西部森林管理署】

令和3年12月5日、日田市（日田地域林業・木材産業活性化協議会）が主催する「日田の木と暮らしのフェア」が「日田



「クリスマスリース」を作る参加者



「もっくん」を作る参加者



ことなく賑わっていました。フェアでは他にも日田杉を使用した家具等の木製品の紹介、展示、販売やハーバスタ・ドローンの操作実演、木育広場や高校生によるジビエレシピのコンクールなど様々なブースやイベントがあり、普段目にすることや体験できることが少ない貴重な経験ができたと思います。今後このような子どもから大人までが木の香りとぬくもりを存分に感じられるよう、地元イベントに積極的に参加し、国有林のPRと地域林業の活性化に取り組んでいきたいと考えます。

「九州森林の日」植樹祭の開催

【鹿児島森林管理署】

11月20日、当署、鹿児島県、（公財）かごしまみどりの基金の主催による「九州森林の日」植樹祭を鹿児島県民の森（始良市北山）で開催しました。

この植樹祭は、2008年5月に九州7県及び九州森林管理局が宣言した「九州の森林づくりに関する共同宣言」の行動指針に基づき、九州における「美しい森林づくり」を推進するために、毎年実施しており今年で14回目になります。

今回の植樹祭は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じ、参加人数を縮小した中で開催となり、鹿児島県環境林務部長、緑の少年団、協賛企業、森林ボランティア団体など約200名の参加がありました。

植樹活動では、当署職員による植付方法及びシカ食害対策として、単木保護資材の設置方法の説明後、スギやイロハモミジ・ヤマザクラ等の広葉樹合わせて960本を植栽しました。初めは単木保護資材の設置に手間取っていましたが、次第に要領をつかみ、予定時間内に無事植栽を終了しました。



植樹祭に参加された皆さん

蘇る吹上浜白砂青松の森 植樹祭（ふれあいの森）

【鹿児島森林管理署】

12月4日、鹿児島県森林ボランティア連絡会の主催による植樹祭を県立吹上浜海浜公園及び網揚国有林で開催しました。

この植樹祭は（公社）国土緑化推進機構が森林を守り育てることの大切さを広く周知し、国民一人ひとりがそれぞれの立場で森林づくりに参加する機運を醸成するとともに森林ボランティア活動の社会的評価を高めていくため、平成15年9月の第3日曜日を全国一斉「森林ボランティア



植樹祭に参加された皆さん



抵抗性クロマツを植樹

アの日」と制定したことを機に鹿児島県でも実行組織が設立され今年で19回目の開催になります。

開会挨拶にて鹿児島県森林ボランティア連絡会代表の塩川英

杉氏より「本来ならば、9月第3日曜日に開催する予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症や植栽する苗木の確保の関係で今日になりました」との挨拶があり、植栽箇所へ移動し作業上の留意事項の説明をうけ抵抗性クロマツの苗木1,000本を植樹しました。今回の植樹祭には県内より約130名の参加があり当署からは永山正一署長以下4名が出席し、2時間ほど汗を流しました。

「ニッセイ熊本森」の育樹活動を実施

【熊本森林管理署】

12月5日、当署管内小萩国有林の「ニッセイ熊本の森」において、公益財団法人「ニッセイ緑の財団」主催による育樹活動が、日本生命保険相互会社、県内協力企業及び当署職員6名を含む57名が参加して開催されました。この「ニッセイの熊本の森」は、2009年に法人の森林として協定した分収造林地で、ヒノキ・クヌギ・サクラが植栽されており、昨年は新型コロナウイルスの影響で中止になりましたが、毎年多くの関係者が参加して育樹活動に取り組んでいます。

当日は秋晴れの中、開会式では主催者挨拶に続いて川畑充郎署長から「今後も我が国のトツ

プランナー」として、緑豊かな森林と森林を愛する子供達を育成して未来の地球へ引き継いで頂くことを期待します」との来賓挨拶を行った後、熊本森林事務所永野達也森林官が作業上の注意事項等について指導しまし



参加者全員で記念撮影



職員の指導で間伐する参加者

た。

参加者は10班に分かれてヒノキの植栽エリアで枝打ちと間伐作業を行い、当署職員及び(有)秋吉林業の指導のもと慣れない作業に苦労した様子でしたが、作業後は陽光が降り注ぐようになった林内を眺めて、「いい汗をかいて楽しかった、林内が明るくなり達成感がある」などの声が聞かれ、森林と触れ合う良い一日となりました。

虹の松原で「除伐体験」を開催

【佐賀森林管理署】

12月18日、虹の松原(唐津市)において、クロマツが過密林となっている幼齢林箇所を対象に除伐体験を開催しました。このイベント開催にあたっては、NPO法人唐津環境防災推進機構KANANE(理事長 西脇俊彦氏)の協力をいただき参加の呼びかけをお願いしたところ、唐津南高校、唐津第五中学校など一般参加者も含め20名が参加し心地よい汗を流しました。

はじめに、白石健二佐賀森林管理署長から「虹の松原は、海岸防災林の役割と保健休養の場としての役割があります。本日、皆さんに行っていた除伐作業は、クロマツの生長に重要な作業です。この活動を続けてい



挨拶される白石署長



除伐を体験する学生

くことは、永続的に虹の松原がその役割を果たしていくことに繋がります」と挨拶を述べました。

つづいて、植薄和彦地域林政調整官より、虹の松原が今日まで受け継がれてきた沿革などについて説明を行い、その後、山部清人森林整備官、志戸祐二森林官、東泰晟技官により、除伐

作業のデモンストレーションを実施し安全作業の呼びかけを行いました。

その後、参加者は3班に分かれて、手鋸を使って除伐作業を行いました。慣れない作業ということもあり、将来大きく育てる木の選木と周辺の伐採木を決めることが難しい様子でしたが、森林管理署職員のアドバイスを受けながら2時間程度でしたが除伐作業を体験しました。

今後、このような体験が、虹の松原の景観保全と後世に受け継いでいくためのボランティア活動に生かされることを期待するとともに、当署としても保全管理に取り組んでいきます。

「森を身近に」森のセミナーを開催

【熊本南部森林管理署】

11月28日、当署会議室において、山の日記念イベント「森を身近に」森のセミナーを開催しました。

当日は、講師に環境省希少野生動物植物保存推進委員の乙益正隆氏を迎え、共催の熊本県球磨地域振興局より山方香代主幹出席のもと、一般参加者を含む総勢22名が集まりました。

開催にあたり、赤星良治署長の挨拶の後、「しのお玉づくり」



しのお玉づくりを楽しむ参加者



講師の乙益氏（右から3人目）も自ら指導

について小薄政弘総括森林整備官が実演を交えながら説明を行い、早速取り組みました。

小学生の参加者も「意外と簡単だね」と感想を述べながら、大きなしのお玉を2つ造っていき、家でも造ってみたいからと、残った材料を持ち帰るほど大変好評でした。

後半は、乙益正隆氏による「民族と植物」をテーマとした講話が行われました。

「柏ダゴ」などを例に、人々が身近な植物をどのように活用していたか、また、意外な効能や食したときの害などについて、ユーモアを交えながらの話に参加者は興味津々に聞き入っていました。

最後に、「きれいな花が咲きます、皆さんで増やしてください」と乙益正隆氏が自ら育てた「ツクスミスレ」を一株ずつお土産としてプレゼントされました。

参加者からは、「楽しかった」「ありがとう」と声をかけられ、さらに喜ばれるイベントになるように取り組むこととしています。

「広葉樹展示林」現地検討会の開催、販売先の開拓等に意見

九州森林管理局では、森林経営管理制度を踏まえた民有林行政の支援として、国有林のフィールドを活用した現地検討会等の開催情報を本局のホームページに公表し、多くの森林・林業に関わる者に対し林業技術の普及に努めることとしています。

令和3年10月7日、森林技術・支援センターが有用広葉樹（セ



展示林の概要を説明する職員



現地検討会の様子

たユキノキ・チャンチンモドキの材質評価及び播種更新手法等について、今後の早生樹活用の可能性や課題等について、関係機関等の情報共有及び意見交換を実施しました。

参加者からは、有用広葉樹等を建築用材等として利用する場合は、販売先の開拓等が必要との意見がありました。

是非、広葉樹展示林を見てみたい方は、技術普及課（TEL096-328-3624）又は森林技術・支援センター（TEL0985-182-2211）にご連絡ください。

（担当：技術普及課）

綾町におけるニホンシカの勉強会の講師

【宮崎森林管理署】

11月4日（木）に綾町ユネスコエコパークセンター主催により同センターで行われた、ニホンシカに関する勉強会の講師を綾森林事務所一般職員の岡杏奈が務めました。当日は勉強会の聴講者として、センター職員や綾町の猟友会メンバーらが出席しました。

綾森林事務所管内においては「綾の照葉樹林復元プロジェクト」の取り組みが実施されているところですが、その一方で、綾町でもシカの採食による林内



講師の岡氏と聴講者の皆さん

えています。

シカ・イノシシ被害 対策協定を締結

【福岡森林管理署】

令和3年12月21日に福岡森林管理署、岡垣町及び遠賀郡猟友会の三者によるシカ・イノシシ被害対策協定を締結しました。

当署では、東峰村、朝倉市、篠栗町のシカ被害対策協定に続き4箇所目の締結となります。

今回は、岡垣町にある三里松原国有林内に住み着いたイノシシによる苗木の掘り返しや周辺農地における防護柵の破壊、周辺でのシカやイノシシによる、農林業被害が著しいことから、イノシシも対象鳥獣とした協定としました。

当日は、岡垣町から岡垣町長

植生などへの影響は顕著であり、当プロジェクトを進めるに当たって問題になっています。

勉強会では、ニホンシカの生態と、大学・大学院に在学中にニホンシカの出産期の行動特性に関する研究で得た知見について、スライドを用いて話をしました。聴講者は特に、研究について関心を持ち、綾町でのニホンシカの状況とも比較しながら非常に有意義な意見交換を行うこともでき、講師にとっても実りある勉強会でありました。

今後も、このような機会があれば、宮崎森林管理署からも積極的に参加・協力し、ニホンシカについての知見を町の関係者などと共有するとともに、町民との交流も行っていききたいと考



協定を締結した岡垣町長、遠賀群猟友会会長と佐藤署長



調印式の様子

ミの保護・増殖に係る連携と協力に関する協定」を締結しており、現在、協定に基づき山都町がゴイシツバメシジミの餌となるシシランの生息環境の基礎データ収集のために、国有林内に日照度と温度のデータロガーの機材を設置してデータの収集を行うとともに、当署から提供したシシランの挿し穂により株の増殖を行っています。

このような中、地元の熊本県立矢部高等学校が学校教育活動の一環として、学校内の施設を活用してシシラン株の増殖に参画することとなったことから、全国でも珍しい「ゴイシツバメシジミの保護に必要なシシランの育成等に係る連携と協力に関する協定」を山都町、矢部高校及び当署の間で締結しました。

署名を行いました。また、川畑充郎署長からは、「ゴイシツバメシジミの保護・増殖とシシランの育成はもろろんのこと、森林・林業を支える人材の育成にも貢献できるように、当署としても積極的に取り組んでいきます」との挨拶がありました。

今回の協定締結を契機として、当署としては引き続き山都町、矢部高校の要望等を聞きながら、これまで以上に連携・協力して地域貢献が出来るように取り組む考えです。

は、「今回締結した協定により、シカ及びイノシシによる被害対策が迅速に行われ、農林業被害の低減につながるよう期待する。」旨のご挨拶をいただき、今後、三者で協力して農林業被害の軽減に取り組んでいくこととなりました。

協定書の締結式は12月21日に山都町役場会議室で開催され、上田浩山都町生涯学習課長から協定に係る概要説明がなされ、続いて梅田稯山都町長、坂本憲昭矢部高校長と川畑充郎熊本森林管理署長が協定書にそれぞれ



協定締結した坂本校長、梅田町長と川畑署長

山都町と矢部高校との 協定を締結

【熊本森林管理署】

当署では、昨年6月に山都町との間で、「ゴイシツバメシジ

民・国合同で一斉清掃 森林整備活動を開催 「ツツ葉の森林」

【宮崎森林管理署】

11月14日、宮崎市内の日向灘

に面した一ツ葉海岸林周辺において、当署主催の「民・国合同の一斉清掃」を実施しました。

この取組みは、毎年宮崎県内で一斉に行われている清掃活動「クリーンアップ宮崎」の開催に合わせ、毎年、実施しているもので、今年も、関係行政機関、林業事業者、地元企業等から34名が参加しました。

当日は、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施しながら、海岸林に捨てられたペットボトル等のゴミを収集し、一時間ほどでゴミ袋をいっぱいにして戻ってくる参加者も多く見られました。今後も活動を継続し、地域の方々へ不法投棄防止を呼びかけ、海岸林の環境保全に努めていく考えです。



民・国合同の一斉清掃に参加された皆さん

また、一斉清掃終了後には、前浜国有林に設定している「連合宮崎ふれあいの森」において、連合宮崎による森林整備活動への指導協力を行いました。

この取組みは、連合宮崎の協力依頼により毎年実施しているもので、連合宮崎の関係者を中心に子供さんを含め59名の参加が混み合ったマツ林の間伐、灌木の除伐、つる切作業を行いました。作業後は、林内が明るくなり今後のマツの良好な成長が期待されるとともに、地域の利用者等により親しみやすい景観となりました。

天候にも恵まれ、一ツ葉の森に参加者の賑やかな声と笑顔があふれる爽やかな一日となりました。



連合宮崎ふれあいの森の整備活動に参加された皆さん

令和三年度大畑国有林 クリーン活動実施

【熊本南部森林管理署】

11月17日、人吉市大畑町国道221号沿い及び大畑国有林内においてクリーン活動を実施しました。

当日は、人吉市役所職員、大畑矢岳校区衛生連合会及び九州林業土木協会熊本支部等の協力を得て総勢約50名で不法投棄物の回収を行いました。

作業開始に当たり、大畑町町内会長より「天候も心配されたが、多くの方々に参加をいただき感謝申し上げます」との挨拶の後、人吉市役所（市民部環境課）の方から分別の方法等について説明を受け、各班に分かれ早速作業を開始しました。

作業箇所は人吉市からえびの市に通じるループ橋周辺では、車から投げ捨てられた空き缶やペットボトル等、また、国道から旧道に入った急斜面箇所には冷蔵庫が捨てられており、苦勞しながら搭載型トラッククレーンを使用して道路までの引き上げ作業に当たりました。

今年度回収した可燃ゴミ180キロ、不燃ゴミ90キロの回収総重量270キロは昨年の640キロよりは大幅に下回りましたが、いまだ不法投棄が止まら

ない状況にあります。

当署としても不法投棄防止に ついて、人吉市、地元町内会等と連携を図りながら引き続き取り組みを進めていくこととします。



不法投棄されたゴミを回収する参加者



回収したゴミ

金峰山周辺のクリーン 活動を実施

【熊本森林管理署】

12月14日、当署管内金峰山及

び小萩国有林において、熊本市、一般社団法人日本森林林業振興会等のくまもと自然休養林金峰山地区保護管理協議会、NPO法人災害通信ネットワーク、一般社団法人九州林業土木協会及び九州国有林業生産協会の関係事業者の協力を得て、当署職員を合わせた総勢52人でクリーン活動を実施し、不法投棄されたゴミを回収しました。

開会式は山下誠吾郎総括事務管理官の司会進行により、川畑充郎署長から「金峰山周辺は多くの観光客が訪れる重要な観光拠点ですので、お越しになられた方々に心地よく自然に触れてもらえるよう綺麗にしましょう」との挨拶の後、下大迫伸一総括森林整備官から作業の実施要領、留意事項等について説明しました。



ゴミの回収状況

作業は、現場を管轄する永野達也熊本森林官等が事前準備を綿密に実施した結果、スムーズに主要道路の2路線沿いに投棄されたゴミを回収・分別出来ましたが、道路から一歩林内に入ると空き缶やペットボトルなどの一般ゴミだけでなく、テレビ、冷蔵庫などの家電ゴミやタイヤ、断熱材まで投棄されており、急斜面で足場の悪い中を苦勞しながら全体で4トンダンプ4台分のゴミを回収・分別して、処理施設へ搬入することが出来ました。

当署管内においては、処理費用の負担を消費者に義務付けた平成13年の家電リサイクル法の施行以降は、不法投棄が増加傾向にありますが、引き続き関係機関との連携・協力を強化して国有林内のクリーン活動に努めていく考えです。



クリーン活動に参加された皆さん



ボケの花は春先に、株全体に花がたくさん咲くので目立っています。単性の花は大きく、

数個集まって咲く花は少し小さめです。花の色は白花、朱色、紅花と多種で、背丈が2m前後と低く、さらに葉よりも先に咲きます。見下ろして鑑賞するので記憶に残ります。また果実は樹木自体が低いのに長さ10cmもあることから

ゴロンと大きく見え、印象に残ります。支那原産古く平安時代に渡

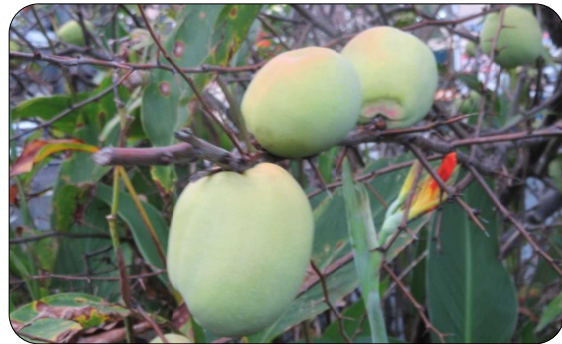
来しました。鑑賞用に改良されて現在では200を超える品種があり、庭木や生垣、鉢植え、切り花と広く利用されています。

幹は滑らかで、棘状の小枝があります。葉は楕円形あるいは長楕円形、鋭頭、基部は楔型、縁にはかすかに鋸歯があります。托葉は卵形あるいは披針形で早落性、花は単性

または数個集まり、径2cmくらいです。

ボケは何となく可哀そうな名前です。語源は、果実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜(もけ)」とよばれたものが「ぼけ」に転化(てんか)したとの説が有力です。

森林インストラクター
安楽 行雄



明けましておめでとうございます。新年の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。皆さんは初詣に行きましたか？「家内安全・商売繁盛・お金がいっぱい貯まりますように」などといくつもの願いを込めてわずかなお賽銭を挙げてお参りしませんか。私もその一人です。

▼いのちの詩人と称される詩人、相田みつをは「願を持ちましよう」というコメントで、「願」とは「世界平和」や「自然が人間の作る公害でこれ以上汚れませぬように」と心から念じるもので、先ほどの初詣の願いは「欲望」であると語っています。

▼昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大や自然災害など、世界的に影響が大きく、コロナの終息、自然災害の減少を願わずにはいられない年でした。▼マスクを付けずに美味しい空気の中を散歩できるよう、荒れた山地に1本でも多くの木を植え、「一隅を照らす」人間になりたいものです。

(か)